

リハは、高齢化が進む透析患者の生命予後やADL・QOLを改善することから近年注目を浴び、2022年度診療報酬改定では人工腎臓を算定する患者に対して、透析中に必要な訓練等を行った場合の評価として「透析時運動指導加算（75点）」が新設された。

と身体機能が  
高いが、  
習慣を持続し  
く、脱落率は  
課題だとして  
内では運動を  
いる患者が  
とも指摘し、  
前田氏の  
稻渕仁会病  
院を開始した  
が、保険診療  
かったもの  
ハが身体機能  
サスを評価す  
行うことであ  
心病院とし  
たすべく取

患者自ら運動改善効果がよ  
するものが難し  
が高いことが  
た。また、國  
療法を行つて  
未だ少ないと  
た。  
講演では、手  
院が透析リハ  
19年12月はま  
上の担保がな  
の、「透析リ  
能に与える影  
る研究として  
院内コンセン  
し、地域の中  
り組みを開始  
低下による脱  
肉量)は維持

ロトコルは  
ヘトレッチ、  
エルゴメー  
タンストレ  
ラバンド、  
行い、理學  
見守り、介

「2度の日に閉じなるコロナと身体分効だる」と評つた。一方、指導加算だが、あり、点数患別リハを併算定を多くは依然高者のモチツクや声との評価対策とし

の判断、非  
このよりも  
ナ禍を考慮  
機能維持  
つたと考え  
価した。

は週1回、  
丁寧な状況や、  
全に通える  
護体制など  
議するが、  
に通うこと  
し状況や、  
生活が破綻  
高齢者が増  
という。  
病院では22  
全教育入院  
ル職員も加  
による指導  
療法への介  
になつた。  
合つたプロ  
動量の評価

「最近はが困難な認知症な  
いしかけて加してい

松原猛人 演  
講演で聖教  
師が、北  
一で開催

うつ高とり定た腹同下い。れ  
たノきト毛駄少ニイ今お

# 小枝氏 生活に合つたプログラムを

道透析療法学会

## ロボット手術癒着剥離に有効

ヘルニアを学ぶ会 特別講演

作成し、入院期間中から運用を開始する。継続性を高めることを目指して適宜修正しながらオリジナリティあふれるプログラムを作成している。小枝氏は課題として、予防期（軽度脅不全）や

廃用症候群に至らない患者への介入は診療報酬上難しいほか、低身体機能や低ADLの患者は在宅復帰が難しく、外来透析に移行できなくなり始めていると指摘。

ける送迎の孤立問題もさることながら、地域ならではの課題も山積しているとしている。今後は地域包括ケアシステムの中で急性期から回復期・生活期・予防期までの一貫した介入が必要だと訴えた。